

【特色あるフロンティアスクールの取組事例】

(別紙様式)

都道府県番号	39
都道府県名	高知県

()
該当する観点にチェックすること

学校名及び規模

安芸市立井ノ口小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	1	7	11
児童数	25	19	22	20	23	20	1	130	

実践研究の概要

<p>・主題(テーマ) ～ 地域を知り、地域を愛し、地域の未来をひらく子どもの育成 ～ 生きる力の根幹をなす基礎学力、読み、書き、計算の習熟を図っていくことを通して、児童個々の学力向上を図る。</p> <p>・テーマ設定の趣旨 教育目標を見直していくためのひとつの資料として、平成11年度に保護者、地域の方を対象に教育調査を実施した。この調査で「井ノ口小学校が今後どのような内容に取り組んでいく必要があるのか」という問いに対して、 地域の特性を生かした自然体験学習の充実 基礎学力の充実のために全教科の学習内容の充実 以上、2点の意見が多く寄せられ、上記の教育目標を掲げた。平成12・13年度は、農業が主幹産業の地域で育っている子どもたちに地域を知らせ、地域で学び、生まれ育った地域に愛着と誇りを抱かせる取り組みは、長期的な視点に立てば、小学校段階で学んだ内容が財産となり、地域発展に寄与できる土台づくりになると考え地域理解教育を総合的な学習の時間に位置付け今日に至っている。 本年度は、地域に発展、寄与できる人材づくりは、基礎・基本となる学力を身に付けることから始まると考えている。そして、基礎学力を「読み、書き、計算」と捉え、算数科を中心として、日々の学習活動の中で意欲的に取り組み、分かると体感できることが、基礎・基本の定着につながると考え、分かる楽しい授業づくりや自ら課題をもち、主体的に学び、問題解決ができる力を養うことがテーマに迫ることと考えている。</p>

実践研究の内容について

() 研究体制の工夫
校内研究組織

校内研究組織 企画委員会 _____ 学習部会 _____ 職員会 (校長・教頭・教務主任・研究主任) (教頭・研究主任・低中高学年代表)

実践方法等の共通理解、配慮した点

・学力向上フロンティア事業に関わる研究の方向性や具体的な実践内容の柱の提案については、上記の企画委員会で検討し、職員会で研究主任が提案し論議を重ねてきた。今年は研究の推進役に研究主任を位置付けた。更に実践内容については、学習部会で具体的な内容を学年の系統性の観点からも論議してきた。

- ・学校規模から考えて研究を全教職員のものとするために、部会別研修のみでなく、低・中・高学年別のブロック研修の機会も設けた。
- ・子どもたちが主体的に学ぶことができるための手立てとして、また指導する側も統一することで効率よく指導するために「算数学びかたの手引き書」を作成した。

() 実践研究の内容

到達度把握検査の課題を明確にするとともに、個に応じた指導方法の研究

- ・高知県が県下的に実施している到達度把握検査(CRT)の分析をし、昨年度と比較しながら課題を明確にし、その手立てのひとつとして年間指導計画に重要単元の設定をする。
- ・複数教員(低・中・高学年別)で傾向を把握することが、学年の系統性や深まりのある話し合いにつながる。

意欲的な学習につながる教材研究及び教材、教具の開発

- ・学習活動の中に操作活動や思考する場の位置付けを図る。
【数と計算】【量と測定】の領域では、
低学年では、具体物・半具体物を使用し、場面づくりの重視
タイル、分数タイル、ワークシートの活用

計算力の習熟と向上につながる教材の研究

- ・基礎・基本となる内容を定着させ補充する時間として、また、児童が意欲的に学ぶ場として、「きつつきタイム」の時間を設ける。1・2学年は、それぞれの学年で実施する。3・4年、5・6年はひとつのユニットとし、学年枠を外す。

- ・補充的な内容のドリルを作成する。(きつつきタイム)

四則計算	妙見山コース (2・3年の内容)	}	一つの山に加減乗除の4コース 計80枚の型分け
	石鎚山コース (4年の内容)		
	富士山コース (5年の内容)		
	エベレスト山コース(6年の内容)		
	* 総計 320枚のドリル作成		

授業改善につながる指導方法や指導体制の研究

- ・算数科においては、全学年、全時間複数で指導にあたる。
(加配教員・校長・教頭・養護教諭)
- ・重要単元に位置付けた単元においては、単元末に習熟度別学習を積極的に導入する。
(基礎コース)(習熟・発展コース)
- ・理解度に大きく差のある学年では、少人数指導を実施する。
- ・「きつつきタイム」では、教職員の協力体制を図り、より多くの児童の実態把握に努め情報交換をする。

() 成果と課題

成 果

- ・全時間、全教員で複数指導を進めたことで、個人指導や加力指導の機会が増し、児童に意欲的に学ぼうとする姿勢が見られ出した。
- ・タイル、分数タイル、ワークシートを活用し、操作活動の時間を設けることで、基礎・基本の定着につながった。
《例》4年の重要単元として位置付けた「分数」「小数」では、タイルや分数タイルを児童個々が作成し、全時間使用したことで量として数の認識が深まり、単元末のテストの平均点も92点、90.2点と他の単元よりも5～10点上がった。
- ・教材研究を複数教員でする機会が増え、授業内容も多様化し教員の協力体制ができた。また、習熟度別学習等の指導法も取り入れ、授業改善が一步進められた。特に理解度に差の

でやすい4・5・6年で習熟度別学習を実施したことで、児童の課題に対する自己理解につながる場となった。

課 題

- ・ 補充的な内容を重視しての基礎学力の定着を図る時間「きつつきタイム」を設けることはできたが、計算をより正確に速くできるような時間を設定し、より計算技能を高めること。
- ・ 児童が主体的な学びができる授業展開の方法、少人数指導、習熟度別学習等の指導法の研究をさらに深めること。
- ・ 児童個々や全体のデータを意識的にとり、数値面からの理解度把握資料を作成すること。

() 成果の普及方策

- ・ 平成15年度は研究会、説明会は今のところ開催予定していない。
- ・ 学校のHPの作成も含めて、平成15年度は成果の普及に努めたい。

() その他

- ・ 算数科における系統性を考慮した指導内容（発展的に扱う内容）の一覧を作成
指導を進めて行く中で削除された内容でも、次学年へのつなぎをスムーズにするために発展的に扱う内容を確認しあった。